

南牧村花卉生産組合花情報(平成 27 年 5 月)

「なんもくの花」



群馬県の南西部に位置する南牧村では、平均年齢 70 歳以上の 16 名が 50 種類を超える宿根草や花木類などの切り花を栽培し、「なんもくの花」「荒船の花」として首都圏へ出荷しています。(上の写真は来月出荷予定の主力商品「フサスグリ」です)

『現地検討会』

5 月 21 日、毎年恒例の現地検討会が開催されました。組合では毎年 5 月と 6 月の 2 回、現地検討会を開催して組合員の栽培技術や出荷技術の向上に取り組んでいます。今回は様々な品目の作付状況や出荷を間近に控えたヒメヒマワリやフサスグリの生育状況等について意見を交わしました。



『実付き良好！フサスグリ』

6 月になるとフサスグリやスモークツリー、ヒメヒマワリなどの出荷が始まります。今年は 4 月下旬から暖かい(暑い)日が多く、例年より出荷が早まりそうです。特に今年のフサスグリは実の付きが抜群です。透き通るような赤色に染まったフサスグリが首都圏に届くのももうすぐです。



『村内で切り花を生産しませんか？』

南牧村花卉生産組合では、「なんもくの花」を生産する仲間を増やす取り組みも始めます。その活動の一つとして、6 月 18 日に開催する今年 2 回目の現地検討会(13:00 南牧村役場集合、16:30 頃終了予定)に「なんもくの花」の生産に興味のある方の参加を募集しています。皆さん、気軽に参加してみたいはいかがでしょうか？

問い合わせ：南牧村役場振興整備課 電話 0 2 7 4 - 8 7 - 2 0 1 1